

○研究プロジェクト
「企業財務リスク管理プロジェクト」

開催責任者 経営学部 竹澤直哉

第1回 2023年6月24日

南山大学J棟J55教室

第2回 2024年2月23日

オンライン開催 (Zoom)

第3回 2024年3月2日

ハイブリッド開催 (南山大学J棟J55教室)



研究プロジェクトは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

企業の財務戦略とリアルオプションの関係について研究を行う。具体的には、企業の財務戦略をリアルオプションとして認識し、その価値評価の可能性について明らかにすることを旨とする。

◇報告者及び題目

第1回

2023年6月24日 (土)

開会の挨拶：竹澤直哉 (南山大学経営学部)

講演前交流会

講演会・討論

タイトル：「中小企業財務リスク管理 ～本社移転ファイナンスとアニメーション制作会社の視点から～」

講演者：仲村直人 (P.A.WORKS 財務部部長)

司会：武内幸生 (南山大学経営学部プロジェクト研究員)

閉会の挨拶：竹澤直哉 (南山大学経営学部)

第2回

2024年2月23日(金)

開会の挨拶：竹澤直哉 (南山大学経営学部)

パネルディスカッション

タイトル：「中小企業財務リスク管理～アニメーション制作委員会について～」

パネリスト：仲村直人 (P.A.WORKS 財務部部長)

赤壁弘康 (南山大学 経営学部)

司 会：武内幸生 (南山大学経営学部プロジェクト研究員)

閉会の挨拶：竹澤直哉 (南山大学経営学部)

第3回

2024年3月2日(土)

開会の挨拶：竹澤直哉 (南山大学経営学部)

「Risk Sensitive Value Measure について」

宮原孝夫 (名古屋市立大学 名誉教授)

「Risk Sensitive Value Measure の応用について」～高リスク財務プロジェクト評価への可能性～

参加者による討論・パネルディスカッション

司 会：武内幸生 (南山大学経営学部プロジェクト研究員)

閉会の挨拶：竹澤直哉 (南山大学経営学部)

◇研究プロジェクトの討論内容

第1回

2023年6月24日(土)

本プロジェクトは、企業・財務戦略に潜む戦略的機会を講演と討論を通して明らかにした。具体的には、キャッシュフローに関する企業・財務戦略をリアルオプションとして概念的にモデル化するため、さまざまな議論を通して、企業の財務リスクと企業・財務戦略リスクをポートフォリオとして捉えるメリットやデメリットについて明らかにすることができた。

この研究は、企業・財務戦略と具体的な財務リスクを組み合わせる点で独自性を持ち、企業経営と財務リスクを明示的に組み合わせる視点は比較的高い企業活動に対して適応することで大きなメリットが得られる可能性について、議論された。また、企業の事業拠点とキャッシュフローに関することなど、多くの質問が寄せられ、議論が行われた。

講演は、企業が行われている環境や可能性、業界の特徴などについて述べられ、企業経営や企業財務リスクが複雑に絡み合っていることが述べられた。リアルオプション評価が有

効であると予想されることを踏まえて、企業が置かれている状況に関する説明に続いて、事業リスク特性などについて様々な討論が行われた。大学院生・学部生からも質問や意見など、議論が活発に行われ、好評を得た。

第2回

2024年2月23日(金)

前回のプロジェクトの議論を踏まえ、アニメーション制作会社が抱えるキャッシュフローリスクに着目した企業財務戦略の有効性について議論を深める必要性が高いことが明らかになった。この議論を踏まえ、キャッシュフローリスクが比較的高い業界における財務リスクに着目した議論を深めるために追加でプロジェクトを開催した。そのリスクの多くがアニメーションの制作過程で重要な役割を果たす製作委員会に関連することを明らかにし、その製作委員会について質疑応答や議論が活発に行われた。

こうした議論を体系的にまとめ、製作委員会が果たす役割を明らかにすることで、アニメーション制作におけるリスク管理・評価を実現できるのではないかという結論を得た。

第3回

2024年3月2日(土)

初回のプロジェクトの議論を踏まえ、リアルオプション評価を既存の確率測度で行うことは不適切であることが明らかになった。議論されたリスク評価に適切と思われる Risk Sensitive Value Measure (RSVM)や Both Sensitive Value Measure (BSVM)を用いることで、より適切な企業財務リスク評価が可能になるという知見が得られた。

こうした知見を踏まえ、理論的に難解な確率測度に関する知識をまとめた講演を宮原孝夫(名古屋市立大学名誉教授)にお願いした。その後、プロジェクトの柔軟性と評価に使用する確率測度に RSVM などを用いることで、どのようなメリットが得られるかについて議論が深められた。また、さまざまな実務への応用についても、意見交換が活発に行われた。

◇研究成果発表

竹澤直哉・武内幸生・赤壁弘康・仲村直人、「日本アニメ制作における資金調達課題」、南山大学経営研究センターワーキングペーパー、2024年4月。